

研究倫理専門委員会 平成 24 年度 第 8 回会議 議事録

日 時： 11 月 1 日（水）午後 6 時 00 分～午後 7 時 30 分
会 場： 3 号館 2 階 カンファレンスルーム
出席者： 安倍基幸、唐沢延幸、武田洋平、田中英子、中島英司、加藤知子、近藤晃弘
坂井一也
欠席者： 渡邊和子(他の業務のため)

報告事項

- 1) 大学院生に対する倫理講習会を 10 月 11 日（木）に実施した。（5 名、安倍教授）
- 2) 研究終了報告書を受理した。（1 名）
- 3) 動物実験に関する山田敬喜先生による外部検証を 10 月 17 日（水）17 時から実施した。報告書（別紙、資料）は、HP 上で公開する。

協議事項

- 1) 研究倫理審査
星城大学大学院 健康支援学研究科 1 年 吉倉孝則
「入院中のがん患者に対するリハビリテーションの身体的、精神的効果の検証」
➤浜松医科大学付属病院の研究倫理審査委員会を経て、検討を行う。

星城大学大学院 健康支援学研究科 2 年 足立恵一
「重度脳卒中片麻痺患者に対する起立歩行訓練の効果」
➤申請書を一部修正することを条件に承認するのが適当であると判断した。
- 2) リハビリテーション学部卒業研究の研究計画書、研究説明書、同意書のフォーマットについて
理学療法学・作業療法学専攻卒業研究の倫理審査及び同意書等のフォーマット
➤研究計画書に「倫理上の配慮」の項目を追加することとした。

検証結果報告書

平成 24 年 10 月 22 日

星城大学

学長 水野 豊 殿

貴機関における動物実験の実施体制に関して、依頼された自己点検・評価結果報告に対する検証結果を報告いたします。

星城大学研究倫理専門委員会 外部委員
藤田保健衛生大学医療科学部 客員教授
医療法人大医会 日進おりど病院 検査部

山田 敬喜



対象機関：星城大学

申請年月日：平成 24 年 4 月 1 日

訪問調査年月日：平成 24 年 10 月 17 日

調査員：山田敬喜（日進おりど病院）

検証の総評

文部科学省基本指針に則し、医科系学部を有する私立大学として、医学研究や学生教育に必要な動物実験の管理体制がよく整備され、適正に動物実験が実施されている。

特に、大学院生を含め動物実験実施者全員に対して、動物実験に関する倫理講習会を義務づけている点、動物実験施設の関係者による教育訓練や技術的支援、さらに動物慰霊碑の建立と動物慰霊祭の挙行など、熱心な対応が随所に見られ、現状においては高く評価できる。

しかしながら、小規模施設の実験動物飼養保管基準は、諸事情により中央の実験動物飼養保管施設のレベルとは必ずしも一致していない点も多く、現時点では問題はないが中長期的な視点での施設の整備、規約の充実等については、今後検討する余地がある。

検証結果

I. 規定及び体制等の整備状況

1. 機関内規定

基本方針に適合する機関内規定が定められている。

2. 動物実験委員会

基本方針に適合する動物実験委員会が置かれている。

3. 動物実験の実施体制

基本方針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。

4. 安全管理を要する動物実験の実施体制

遺伝子組み替え動物実験、病原体の感染実験、有害化学物質の投与実験など、該当する動物実験は、行われていないが、今後に向けての実施体制を検討すべきである。

5. 実験動物の飼養保管の体制

概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。

多くの小規模施設の管理体制は、整備後、間もないことから、引き続き運用上の問題点を点検し、更なる改善につなげることを期待する。

II. 実施状況

1. 動物実験委員会

基本方針に適合し、適正に機能している。

2. 動物実験の実施状況

動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。

実験のための飼養保管施設から研究室への動物の搬出・入や研究室内における一時保管等の取り扱い規定の整備を行うべきである。

3. 安全管理を要する動物実験の実施状況

検証結果報告書

安全管理上、問題となる事例は現時点での審査対象実験では認められず、適正に実施されている。しかしながら、今後における多岐にわたる安全管理を要する動物実験に対し、あらかじめ規定等の整備を行うべきである。

4. 実験動物の飼養保管状況

概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。

飼養保管の手順等もマニュアル等で具体的に定められている。動物の健康管理や施設の衛生管理も適正に行われているが、より充実させるべき余地がある。

5. 施設等の維持管理状況

概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。

施設への入退出記録をはじめ、空調や点灯消灯等に関わる設備等最小限度の整備はなされているが、中長期的な視点でより充実した施設整備にむけ検討する余地がある。

6. 教育訓練の実施状況

概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。

一般的な研究倫理審査を含め、学部学生の卒業研究における動物実験への訓練等について明確に示されていない。

7. 自己点検・評価、情報公開

基本方針に適合し、適正に機能している。

本年度よりホームページ上で、本検証結果について情報公開することが決定されている。